



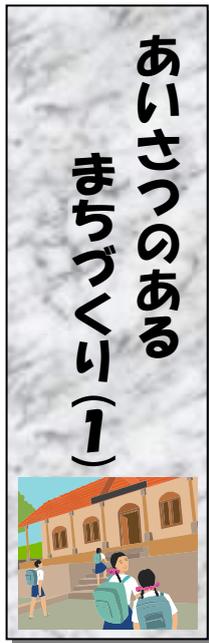
○「あいさつ」をテーマに

「寒いね。これどう！」「うまいね！」市場で黙って買い物する人はいない。話す中で買う人も売る人もどんどん近づく。「道徳のまち笠松」推

進会議では、一月三十日に、松枝公民館で「あいさつのあるまちづくり」をテーマにワークショップを開催しました。ボランティア活動をしている方、学校の先生、「道徳のまち笠松」の関係者など二十二名が集まり、意見を交流しました。

○引き継がれる 永平寺中学校の「礼」

平成二十年七月、NHK番組「鶴瓶の家族に乾杯」で、福井県永平寺中学



校のあいさつが全国に紹介されました。登下校時に、生徒が校門前に立ち止まり、校舎に向かって一礼します。自転車通学の生徒も自転車から降りて一礼します。学校への敬意や感謝、自分の心に節目をつくるためでしょうか。この姿は、開校以来六十数年引き継がれています。全国の視聴者から賞賛や問い合わせなど大きな反響がありました。しかし、生徒達はごく当たり前のこ

となのに、どうしてほめられるのか不思議に感じました。登下校時に校門で校舎に向かって一礼することは、この町では当たり前のことなのです。

○町の風土をつくる

この町は、曹洞宗大本山永平寺の門前町。永平寺の文化が浸透し、学校で

も家庭でも地域でも「礼の心」が大切にされ、生活の一部となっています。校舎への一礼もそのひとつ。人や物に感謝したり、謙虚に自分を見つめたりする「礼の心」はこの地の伝統となり、風土となっているのです。

わが町笠松も心を大切にす町にしたい。身近なあいさつから笠松の風土をつくる。みんな決意を新たにしました。



「あいさつのあるまちづくり」についてグループごとに話し合う